

# 英 語

## 1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手引の概要	説明及び協議の概要
平成21年度	1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領における英語科の目標</li> <li>・各科目の内容の構成と取扱い</li> <li>・各科目に共通する内容等</li> </ul>
平成22年度	1 英語科の目標 2 「総合英語」と中学校の「英語」との関連 3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項 4 各科目の内容で改訂された事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語科の改善の基本方針</li> <li>・4技能を結び付けた言語活動を通したコミュニケーション能力の育成</li> <li>・科目「総合英語」「異文化理解」</li> <li>・各科目の指導上の留意点</li> </ul>
平成23年度	1 教育課程の編成 2 指導計画の作成と内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成における基本的な考え方や配慮事項</li> <li>・言語活動を充実する学習指導の実践例</li> <li>・指導計画作成に当たっての配慮事項</li> </ul>
平成24年度	1 学習指導の改善・充実 2 評価方法の改善・充実 3 学習評価の具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の充実を図る視点</li> <li>・観点別学習状況の評価について</li> <li>・評価規準の具体例</li> <li>・単元の指導と評価の計画</li> </ul>

## 2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

年間指導計画の作成に当たっては、生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえ、卒業時までに生徒が身に付ける能力の全体像を描いた上で、それぞれの科目の特性に応じて、生徒に身に付けさせたい能力を明確にする必要がある。

ここでは、「総合英語」における、「英語表現の能力」を評価するための言語活動を取り入れた年間指導計画等の例を示す。

### (1) 年間指導計画

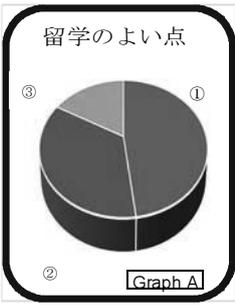
教科名	英語	単位数	4 単位	科目名	総合英語			
授業計画								
月	課	単元名	学習のねらい	単元の評価規準			評価方法	
				コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	英語表現 の能力	英語理解 の能力		言語や文化につ いての知識・理解
6	L3	Is a cell phone useful in our daily life?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図表を用いて、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。</li> <li>・発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの質疑応答やプレゼンテーションに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図表を用いて情報や考えなどをまとめ、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった量の説明文を聞いたりして、概要や要点を的確に理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションに必要な語句や表現を理解している。</li> </ul>	観察法 プレゼンテーション ワークシート

### (2) 単元計画

単元名：Lesson 3 Is a cell phone useful in our daily life?  
 単元の目標：図表を用いて、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。  
 発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりすることができる。

時間	ねらい、学習活動、指導上の留意点	単元の評価規準	評価方法
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識して論理的に発表したり、図表を用いるなどして効果的なプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>・他の生徒のプレゼンテーションを見たり、教師からのコメントを聞いたりして、自分のプレゼンテーションの改善点を見つける。</li> </ul>	英語表現の能力	・プレゼンテーションの活動を観察し、評価する。

(3) 単元計画の「英語表現の能力」を評価する言語活動の例【第2次（2時間）】

「英語表現の能力」	評価規準 (話すこと)	聞き手を意識して論理的に発表したり、図表を用いるなどして効果的なプレゼンテーションをすることができる。
<p>1 評価の方法 プレゼンテーションの活動の観察</p> <p>2 プレゼンテーションの実施手順</p> <p>(1) 生徒は、自分の興味・関心に合ったテーマを決め、発表内容を作成するため、インターネットで調べたり、級友へのアンケート調査を行う。</p> <p>(2) 教師は、生徒が調べた内容について効果的に発表できるよう、図表の作成、プレゼンテーションソフトウェアの活用など、プレゼンテーションの方法を工夫するよう生徒に指導する。</p> <p>(3) 教師は、プレゼンテーションの発表時間や評価方法などを生徒に事前に提示する。</p> <p>(4) 聞き手は、発表されたプレゼンテーションについて質問をする。</p> <p>3 評価の具体例</p> <p>本単元のように、1回のプレゼンテーションで生徒の目標への到達度を総括する必要がある場合には、「おおむね満足できる」状況（B）を中心に、それより質的に高まりが見られるものを「十分満足できる」状況（A）、評価規準を満たしていない場合には「努力を要する状況」（C）と判断する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■ プレゼンテーションの評価の具体例（調べたことを図表にまとめ説明）</p> <p>○ 「十分満足できる」状況（A）の例（具体例を用いたわかりやすい説明）</p> <p>Today I'm going to talk about studying abroad. The newspaper said that the number of Japanese students who study abroad is going down these days. I'd like to study abroad, so I browsed the Internet to learn about good points for studying abroad.</p> <p>Look at Graph A. It shows what Japanese students think about their experiences in foreign countries. They got three good points from studying abroad. They ① <u>became good at foreign languages</u>, ② <u>understood different countries</u>, and ③ <u>made friends in the world</u>.</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">Graph A</p> </div>		

3 観点別学習状況の観点ごとの総括（単元における観点ごとの評価の総括）

単元においては、学習過程における評価情報を観点ごとに総括する。観点ごとの評価記録が複数ある場合の総括の方法としては、次のようなものが考えられる。

【単元の評価表（Lesson 3）の例】

氏名	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		英語表現の能力				英語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			総括
	観察	評価	ワークシート	プレゼンテーション	評価	ワークシート	評価	ペーパーテスト	評価				
○○ ○○	B	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
△△ △△	B	B	B	B	A	B	B	A	B	A	B	B	B
□□ □□	A	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A	A	A

※ ある観点でいくつかのまとまりごとに何回が行った評価結果（A, B, C）について、その数が多いものが学習の実現状況を最もよく表し考え方や、評価結果A, B, Cを、例えば、A=3, B=2, C=1のように数値化し、合計したり、平均したりすることで総括する考え方もある。

**Topic** CAN-DOリストの作成について

CAN-DOリストの作成に当たっては、各科目の指導計画とCAN-DOリストの形で設定した学習到達目標が、年間指導及び単元の計画に反映され、関連付けられていることが重要である。また、作成したCAN-DOリストを基に、生徒が到達目標を達成したか、指導内容が十分であったかなどを検証することで、指導と評価の改善を図ることができる。

到達時期	到達目標	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1年終了時	日常的・社会的な話題について、他者とコミュニケーションができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表等を聞いて概要や要点をとらえることができる。</li> <li>未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた日常的なテーマについて、即興で3分程度の会話ができる。</li> <li>図表を用いて、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の英文を、感情を込めて、聞き手に内容が伝わるようにして読むことができる。</li> <li>説明、評論、物語、随筆などを速読して概</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な話題について、情報や考えを整理して、自分の意見を順序立てて200語程度で書くことができる。</li> </ul>

※ 学年ごとのCAN-DOリストの学習到達目標の例については、「外国語 3(2)」（p62）を参照すること。また、文部科学省のWebページに掲載されている「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形で学習到達目標設定のための手引き」のpp19～20も参照すること。（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306\\_4.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf)）